

ユーシン精機 (コード 6482)

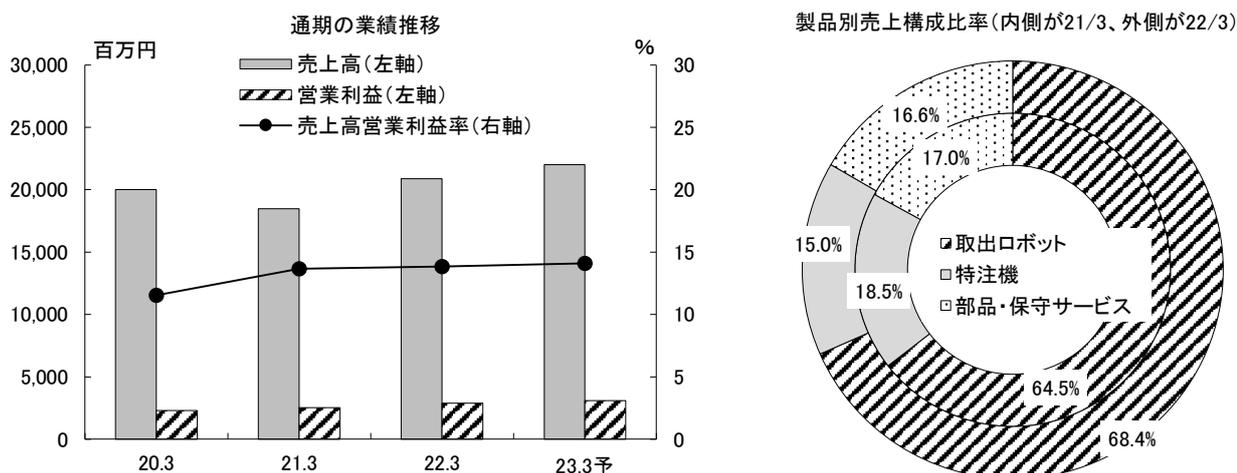
◆通期業績推移(連結) (23.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	20,011	2,309	45.0	18.0	3,558	▲1,475	▲946	5,652
21.3	18,473	2,522	53.7	18.0	3,487	▲1,987	▲561	6,846
22.3	20,874	2,890	62.1	19.0	2,083	▲1,341	▲763	7,055
23.3予	22,000	3,100	64.6	30.0	-	-	-	-

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (23.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	10,364	1,255	24.6	8.0	2,127	▲886	▲669	5,115
21.3	8,072	871	19.4	5.0	2,074	▲594	▲377	6,775
22.3	9,722	1,349	30.3	9.0	763	▲691	▲450	6,454
23.3予	10,400	1,450	30.9	10.0	-	-	-	-

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



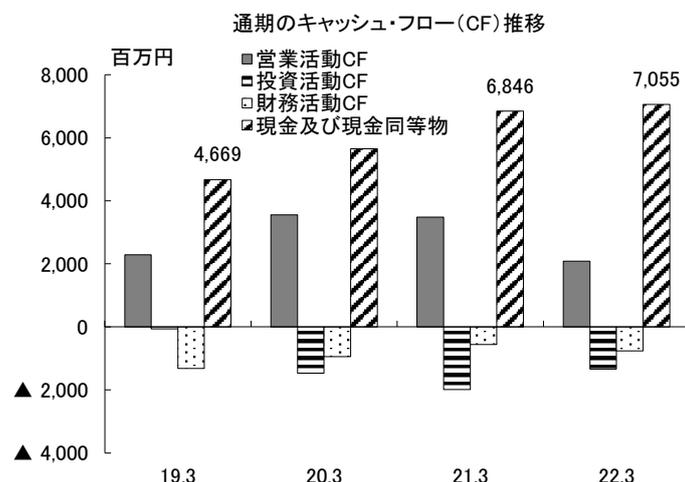
22年3月期の業績概況…22年3月期の業績は、売上高 208億7,400万円 (21年3月期比13.0%増)、営業利益 28億9,000万円 (同14.6%増)、経常利益 30億8,500万円 (同18.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益 (以下、当期純利益) 21億1,200万円 (同15.6%増) となった。特注機が減収となった一方、取出口ロボットが設備投資需要の回復や新製品の販売好調を背景に増収となった。利益面では、材料費や海上輸送費の上昇があったものの、増収による売上総利益率の改善 (43.1%。21年3月期は42.6%) や継続的なコストダウン、業務効率化、減価償却費の低減などから、増益となった。経常利益及び当期純利益については、営業外収益で為替差益を9,600万円 (21年3月期比182.4%増) 計上したことなどが加わり、営業利益よりも増益率が大きくなっている。1株当たりの年間配当金は19円となっている。

売上高において、品目別では、取出口ロボットが142億8,200万円 (同20.0%増)、特注機が31億2,400万円 (同8.7%減)、部品・保守サービスが34億6,700万円 (同10.2%増) に。主な業種別では、自動車が増収となった。自動車は55億8,200万円 (同31.4%増)、電子部品は46億5,300万円 (同40.8%増)、雑貨は24億7,100万円 (同40.0%増)、家電は18億7,300万円 (同13.3%増) に増加した一方、医療は36億3,300万円 (同25.5%減)、容器は13億5,000万円 (同9.8%減) に減少。医療向けの売上構成比率は17.4% (21年3月期は26.4%) に低下した。また、主な地域別では、

国内が 82 億 6,200 万円 (21 年 3 月期比 19.1%増)、中国・台湾が 33 億 1,800 万円 (同 20.5%増)、その他アジアが 36 億 2,200 万円 (同 19.5%増)、北米が 41 億 300 万円 (同 21.6%増) に伸びた一方、欧州が 10 億 7,500 万円 (同 39.7%減) に減少した。

取出口ロボットについては、新製品の販売が好調に推移したことや、日本、北米、アジアなどを中心とする設備投資需要の回復に加え、部品調達難の続く中でも納期厳守に努めたことで、売上高が拡大した。特注機は医療関連での計画変更など大口受注の回復の遅れから減収に。部品・保守サービスについては、経済活動の再開による需要の回復を背景に、売上高が増加した。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当期末における現金及び現金同等物の残高は 70 億 5,500 万円 (21 年 3 月期末比 3.1%増) となった。営業活動 CF では、税金等調整前当期純利益が 30 億 8,600 万円 (21 年 3 月期比 18.2%増)、減価償却費が 5 億 8,500 万円 (同 9.2%減)、売上債権の増加額が 9,300 万円 (21 年 3 月期は減少額 4,300 万円)、たな卸資産の増加額が 5 億 7,500 万円 (同減少額 2 億 4,900 万円)、仕入債務の減少額が 3 億 5,100 万円 (同増加額 8 億 7,000 万円)、法人税等の支払額が 8 億 2,200 万円 (21 年 3 月期比 77.2%増) となったことなどにより、20 億 8,300 万円の収入 (同 40.3%減) となった。投資活動 CF では、定期預金の預入及び払戻による差引支出額が 4 億 9,800 万円 (同 73.0%減)、有形固定資産の取得による支出が 8 億 1,000 万円 (同 743.8%増) となったことなどにより、13 億 4,100 万円の支出 (同 32.5%減) に。財務活動 CF では、配当金の支払額が 7 億 4,800 万円 (同 46.7%増) となったことなどにより、7 億 6,300 万円の支出 (同 36.0%増) となった。



23 年 3 月期の業績見通し…23 年 3 月期の業績は、売上高 220 億円 (前期比 5.4%増)、営業利益 31 億円 (同 7.2%増)、経常利益 31 億円 (同 0.5%増)、当期純利益 22 億円 (同 4.2%増) の見通しで、取出口ロボットでは自動車関連の復調のほか、電子部品・医療・容器関連などが堅調に推移し、特注機では医療向けの復調と自動化需要の継続が見込まれている。1 株当たりの年間配当金は 30 円 (設立 50 周年記念配当 10 円を含む) の予定。

売上高予想において、品目別では、取出口ロボットが 150 億円 (同 5.0%増)、特注機が 34 億 4,000 万円 (同 10.1%増)、部品・保守サービスが 35 億 6,000 万円 (同 2.7%増)。地域別では、国内が 85 億 9,000 万円 (同 4.0%増)、中国・台湾が 34 億円 (同 2.5%増)、その他アジアが 38 億 1,000 万円 (同 5.2%増)、欧州が 12 億 2,000 万円 (同 13.5%増)、北米が 44 億 8,000 万円 (同 9.2%増) などとなっている。また、業種別では、自動車 that 61 億円 (同 9.3%増)、電子部品が 48 億円 (同 3.2%増)、医療が 42 億円 (同 15.6%増)、雑貨が 25 億円 (同 1.2%増)、家電が 19 億円 (同 1.4%増)、容器が 15 億円 (同 11.1%増) となっており、医療向けは売上高全体の 19.1%に再び上昇する見通し。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。